

# ニートに中小企業注目

## 人手不足対策 研修や職場体験

若年無業者(ニート)やひきこもり経験者など、正社員として働いた経験のない若者の就労を後押しする中小企業が徐々に増えている。人手不足が深刻化する中、研修や職場体験を通じた若者の採用を強化している。(米山裕之)

横浜市内の作業スペースで3月下旬、30歳前後の若者3人が、模型の屋根に板金を取り付ける作業を行っていた。寸法を測り、板金を切って形を整えていく。「屋根の勾配に沿って曲げるんだよ」。住

宅の外装工事を手がける「南富士」(静岡県三島市)技術部長の斎藤英樹さん(65)が、一人一人にアドバイスした。3人は、同社が昨年3月に始めた屋根職人養成プログラム「ルーフ・マイスター・スクール」の受講生たちだ。同社ではニートやひきこもり経験者の若者を受け入れ、ビジネスマナーや屋根工事の技術を3か月かけて教育する。受講中は月額8万円の生活支援金と交通費を支給している。これまでに6人の若者が修了し、同社に就職している。

「フリーターだった東京都足立区の男性(26)は「仕事は難しいが、上手にできると達成感がある。早く技術を身に付け働きたい」と話した。同社がこうした研修制度を設けた背景には、屋根職人の高齢化と人手不足があるという。同社社長の杉山定久さんは「若い職人が入ってこない。ニートの若者が手に職をつけることで安定した職に就くことができ、業界も新たな人材を獲得できる」と話す。人手不足が問題となるなか、特に中小企業は若者の採用に危機感を募らせる。中小企業基盤整備機構が昨年実施したアンケートでは、経営者の74%が「人手不足を感じている」と回答し、そのうち76%が「人材の採用が困難」と答えた。



南富士の斎藤さん(中央)から屋根工事を学ぶ若者たち(横浜市内で)

フリーターだった東京都足立区の男性(26)は「仕事は難しいが、上手にできると達成感がある。早く技術を身に付け働きたい」と話した。同社がこうした研修制度を設けた背景には、屋根職人の高齢化と人手不足があるという。同社社長の杉山定久さんは「若い職人が入ってこない。ニートの若者が手に職をつけることで安定した職に就くことができ、業界も新たな人材